

## このコンテンツを読んでワカルこと・デキルこと

- ▶ 駆血帯の種類ごとに適切な使用方法がワカル
- ▶ 血管が見つからない時も穿刺部位がワカル
- ▶ ピットフォールに陥らずに採血がデキル

# I . 静脈血採血

## 1. 目的

- ①各種血液検査
- ②血液培養
- ③その他（輸血のクロスマッチなど）

## コツ/ポイント/注意点

- ▶ まず適応を考える
- ▶ 特に救急外来ではとりあえず血液検査となりがちであるが、本当に採血での血液検査が必要なのかももう一度考える
- ▶ 採血のあとで末梢ルートから点滴が必要かどうかも確認

## 指導医からのコメント

- ▶ とりあえず検査ではなく、必ず目的を考えてから採血しよう
- ▶ 採血後に点滴が必要な場合は、静脈留置針を挿入して採血後に静脈ルートを接続するとよい

## 2. 事前の準備

①検査のオーダー

②患者への説明

③物品の準備

必要な物品：針、駆血帯、消毒（アルコール綿）、採血管、針廃棄箱

### コツ／ポイント／注意点

- ▶ 穿刺前には採血の目的・必要性について説明し同意を得る（院内のルールに従う。通常口頭のみでの説明で可）
- ▶ いつも採血に苦勞するなどの情報も重要（頻回に医療機関を受診している患者では、どこから採血しているかなどを聴取する）

### ピットフォール

- ▶ 穿刺に注意が必要な患者（透析中でシャントがある、乳癌手術の既往）を確認
- ▶ シャント側や乳癌手術後の側からは穿刺しない
- ▶ その他、病歴や内服薬も確認する（過去の受診歴があれば感染症の有無についても確認）。アルコール綿に対するアレルギーの既往も確認

### 指導医からのコメント

- ▶ 穿刺前には準備が重要
- ▶ 可能な範囲で採血のリスクについて情報収集する（感染症の可能性、出血傾向など）

### 3. 針と採血管

採血の方法には2種類ある。

- ①注射器でまとめて採血
- ②真空採血管を使用

#### コツ/ポイント/注意点

- ▶採血量にもよるが成人の場合は真空採血管を使用することが多い
- ▶少量でよい場合は必要量を注射器で採血してもよい。採血後に採血管に分注する

#### ピットフォール

- ▶検査によって使用する真空採血管は決まっている(必要な真空採血管を準備)
- ▶それぞれの採血管に必要な採血量は決まっている(合計で必要な採血量を計算してから穿刺する)

#### 指導医からのコメント

- ▶よく使用する真空採血管の色と採血量は覚えておこう(図1、色はメーカーによって異なるので注意)
- ▶真空採血管を使用する場合は翼状針が使用しやすい(図2)

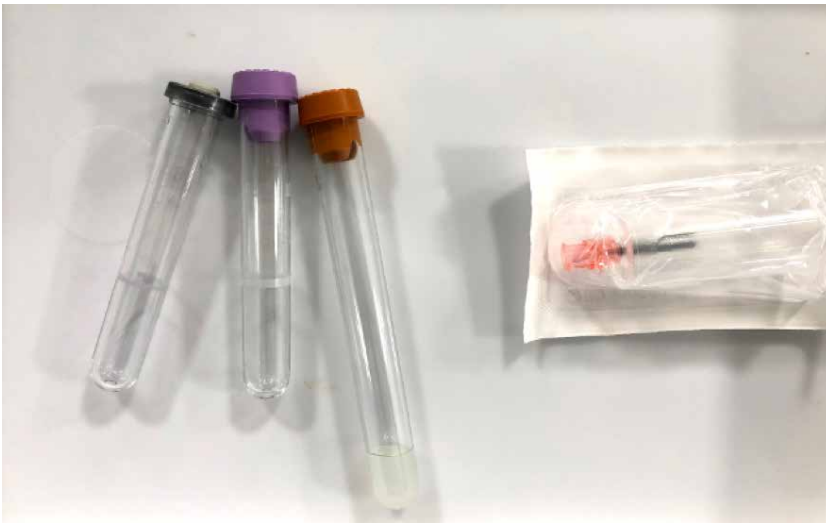


図1 各種採血管とホルダー



図2 翼状針とホルダー、真空採血管

## 4. 駆血帯

▶ 駆血帯にはいくつかの種類がある (図3)



図3 駆血帯

A: 単純な管、B: クリップ付き、C: ワンタッチ着脱型